



中 田 小

平成29年11月30日

学 校 教 育 目 標

さわやか笑顔中田っ子 思い合い ひびきあい
共に生きる力を育てます。

中田小ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/nakada/>

相手の都合

校 長 蒲 谷 猛

『 灯台守 』

イギリス民謡

訳詞:勝 承夫

凍れる月影

空に冴えて

真冬の荒波

寄するおじま

思えよ 灯台守る人の

尊き やさしき

愛のこころ

激しき雨風

北の海に

山なす 荒波

猛り狂う

その夜も 灯台守る人の

尊き 誠よ

海を照らす



家族から「偏屈者」扱いされても、私が使っていないのはLINE。双方向性、同時性、無料IP電話など、その便利さについて一定レベルは理解しているつもりですが、まだどうも活用する気になりません。

自分が子どもの頃は、連絡を取る方法は電話。友達と話すには、ほぼ家族の取り次ぎを経ないとはいけませんでした。また、用件や時間に配慮が必要でした。受ける相手の都合を配慮すべく普及したのが、FAXやメールでした。受信や返信が「受取人」に委ねられました。それが、携帯電話のメールが中心になり、さらにLINEのようなメッセージアプリが主流になると、配慮すべき「受ける相手の都合」が軽んじられているように感じるのは。

メールしか使っていない自分でも閉口するのは、「送ったんだけど見てないの。」という送信者からのお叱り。「私は伝えたのに何で」というトーンに、一方的だなと思ってしまいます。遅刻、欠勤の連絡はLINEで、という企業もあるそうですが、こちらはちゃんと送りましたよとか、送ったんだからOKでしょという感覚にはなりたくないものです。やはり「偏屈」ですかね。

最近よく、夜中に息子の部屋から誰かとしゃべっている声が聞こえてきます。一人勉強にLINEを活用すると、学習が効率アップすると最近取り入れ始めたとのこと。メッセージアプリを当たり前のツールとして活用する上でも一定の配慮はあるようで安心しましたが、この便利なツールを使うなかで、「相手のペースに合わせる」とか、「相手の思いを慮る」ということも学んでいってほしいなと思いました。

昨日、区球技大会の閉会式で、代表の児童が壇上に上がり、ちらっとメモを見ては顔を上げ、少し話すともまたメモを見るという具合に話し始めました。その姿に「紙を見て話したら。」と複数の子どもから声が上がりましたが、やがてみんな合点がいて黙りました。「今日の試合では、全く歯が立たなくて悔しかったけど、元気に試合ができたからよかったです。」ああ、自分の感想を生言葉でスピーチに織り込みたくて、紙は見ないで話したかったんだと、本人説明を聞かなくても、毅然とスピーチをする様子から、「相手の思い」を感じ取る子どもの姿がそこにありました。一昨日、給食時に職員室に用事があって来室した児童が、「失礼します。〇年〇組の※%です。あっ。お食事中にすみません。〇〇先生

に用事があってきました。」『あっ』の瞬間に、この児童の目に食事をする〇〇先生の姿が飛び込んできたのでしょう。瞬時にこの言葉を添えることができた、この児童の感性に感動しました。

12月は人権月間です。自分の思いだけで突き進まず、「相手の思い」「相手のペース」に気づくことのできる子どもたちであってほしいと考えています。気づいたならば、それを自分なりの言葉や行動に表してほしいです。そんな姿を一つでも多く見つけて、ほめていきたいと思います。